

## 新しい「中部大学教育活動顕彰制度 — より良い教育を目指して —」による 平成20年度の受賞者の決定と授賞式の開催

学長補佐・大学教育研究センター長 教授 坪井和男



### 教育活動顕彰制度

大学の最も重要な使命は次代を担う若者の育成である。それゆえ大学人は、常に最善と考えられる教育活動・改善を推進し続けることが当然の責務であり、その業績の顕著な教員を顕彰する制度の導入は大学の発展のためにも望ましい。

このような理念・目的に基づいて、平成14年度から本格的に導入・実施してきた「ポイント制による教育活動総合評価・表彰制度」を平成20年度からは新たな「教育活動顕彰制度 — より良い教育を目指して —」としてさらに進展させた。

新たな教育活動顕彰制度は、各学部（研究科を含む）の教育目的を十分に勘案した教育活動・改善実績を評価する制度としたもので、評価基準を明確にして総合評価・顕彰する教員個人を対象とした「教育活動優秀賞」と広義の教育活動（学生募集活動、就職支援活動なども含む）における特筆すべき活動（改善）を評価・顕彰する教員個人および組織単位を対象とした「教育活動特別賞」を設けている。

### 審査選考過程

新たに施行した教育活動顕彰制度による初めての選考は、教育活動顕彰審査選考委員会（委員長：伊藤正之副学長、以下、委員会と略記）において審査等に関する方向性を定め、それに沿った資料に基づいて厳正に審査を行い、各賞の受賞者を決定した。

教育活動優秀賞の選考は、選考基準にFD活動の重点目標『魅力ある授業づくり』の一環として実施している「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」の要素も加え、各学部対象者に対して案分して決めた表彰者数を基本に、年度当初に公表した各評価項目に対して集計された

ポイントの上位者から総合的に最終候補者の選考を行い、後述の12人の受賞者を決定した。

教育活動特別賞の選考は、推薦された各事案に対する審査方法から検討を行い、予備審査、最終審査という2段階の審査を経て、7件の中から最終的に1件を決定した。なお、選に漏れたいずれの推薦事案も特別賞に値する内容との評価はあったが、一層の実績を積まれることを期待した結果、今回の採択には至らなかった。

### 受賞者と受賞理由

教育活動優秀賞受賞者は次の12人。  
(50音順)

今村洋美教授（外国語教室）  
蒲生晴明教授（健康科学教室）  
栗濱忠司教授（電子情報工学科）  
小林礼人准教授（理学教室）  
佐伯守彦准教授（機械工学科）  
田橋正浩准教授（電気システム工学科）  
堤内 要准教授（応用生物化学科）  
永田典子教授（日本語日本文化学科）  
藤吉弘亘准教授（情報工学科）  
松原勝子准教授（英語英米文化学科）  
山下裕文講師（経営学科）  
和田俊夫教授（食品栄養科学科）

受賞理由は「中部大学教育活動顕彰制度実施要項の総合ポイントが上位にあり、教育活動全般について大いなる貢献が認められ、学生からの信望も厚く、他の教員の模範となる教員であると総合的に判断した」。

教育活動特別賞は伊藤守弘准教授（生命医科学科）で、受賞理由は「第一種放射線取扱主任者受験対策セミナーの企画、運営において中心的な役割を果たし、熱心に学生指導を経た結果、専門の放射線技師科等を有しない本学において4人の現役学生合格者

を輩出するという画期的な成果をあげた」。

### 授賞式の開催

授賞式は7月30日午後5時10分からキャンパスプラザ3階学生ホールで開催され、山下興亜学長、伊藤副学長はじめ、各学部長・学科主任、FD委員会委員ら約60人が出席した。

授賞式では、山下学長から受賞者にお祝いと激励のあいさつがあり、受賞者一人ひとりに記念の楯が贈られた。続いて、中部大学後援会の佐々木次



受賞者への記念の楯

明会長から在学生の父母を代表してお祝いの言葉をいただき、後援会から受賞者に教育活動振興支援賞が贈呈された。また、懇談の後、堤内 要准教授が受賞者を代表してあいさつをした。

この授賞式を機会に、教員と学生が一緒になって『魅力ある授業づくり』への挑戦をしていくことで、さらにその成果をあげようものと確信している。

なお、平成21年度からは、実施初年度の課題等も踏まえて、本制度を微修正しつつ、学生からも一層信頼される中部大学の特色ある素晴らしい制度として定着させたい。



教育活動顕彰授賞式の記念写真